

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】令和3年11月11日(2021.11.11)

【公開番号】特開2020-120332(P2020-120332A)

【公開日】令和2年8月6日(2020.8.6)

【年通号数】公開・登録公報2020-031

【出願番号】特願2019-11462(P2019-11462)

【国際特許分類】

H 04 R 1/10 (2006.01)

H 04 R 1/00 (2006.01)

H 04 R 1/32 (2006.01)

H 04 R 3/00 (2006.01)

【F I】

H 04 R 1/10 1 0 1 Z

H 04 R 1/10 1 0 4 E

H 04 R 1/10 1 0 3

H 04 R 1/00 3 1 8 Z

H 04 R 1/32 3 1 0 A

H 04 R 3/00 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】令和3年9月28日(2021.9.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

図1は、本実施の形態に係るイヤホン装置1の外観図である。図2(A)は、図1に示すイヤホン装置1のA部拡大図であり、図2(B)は、図1に示すイヤホン装置1のB部拡大図である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

また、上記の実施の形態では、イヤホン2a、2bの装着状態に基づいて、音量レベル制御部39および音響特性制御部40の動作モードを切り替えているが、本発明はこれに限定されない。例えば、ネックバンド3に音声認識処理部を内蔵してもよい。これにより、携帯音楽プレーヤ、スマートホン等によるオーディオデータの再生中に、マイク34の入力音声に対して音声認識処理を施して、聴取者が動作モード切替のための所定の音声コマンドを発声したか否か監視し、所定の音声コマンドを検出した場合に、動作モードを切り替えてよい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0050】

また、上記の実施の形態では、ホルダ30a、30bに設けられた突起300とイヤホン2a、2bの被保持部20a、20bの切欠き200とを係合させることにより、イヤホン2a、2bを、音声が効率的に聴取者の耳に向かう姿勢（音声出力方向Va、Vbが、聴取者の耳に向かうように上向になる姿勢）で固定している。しかし、本発明はこれに限定されない。ホルダ30a、30bおよびイヤホン2a、2bの被保持部20a、20bは、イヤホン2a、2bを、音声が効率的に聴取者の耳に向かう姿勢（音声出力方向Va、Vbが聴取者の耳に向かうように上向になる姿勢）で固定することができるものであればどのような形状のものであってもよい。例えば、ホルダ30a、30b側に切欠きを設け、イヤホン2a、2bの被保持部20a、20b側に突起を設けてもよい。また、ホルダ30a、30bおよびイヤホン2a、2bの被保持部20a、20bの形状をハート型とすることにより、ホルダ30a、30bに装着されたイヤホン2a、2bの被保持部20a、20bの回転を防止して、イヤホン2a、2bを、音声が効率的に聴取者の耳に向かう姿勢（音声出力方向Va、Vbが聴取者の耳に向かうように上向きになる姿勢）で固定してもよい。また、切欠き200および突起300の代わりに、ホルダ30a、30bの内周面の一部に磁石302を配置するとともに、イヤホン2a、2bの被保持部20a、20bの外周面の一部に磁石202を配置することによって、ホルダ30a、30bに収容にされたイヤホン2a、2bの向きが、両磁石202、302が引き合う力によって調整されるようにしてもよい。